

令和元年度 岩谷学園アーティスティック B 横浜美容専門学校

学校関係者評価委員会報告書

(平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月)

1 学校関係者評価委員会実施要項

開催日時	令和 2 年 5 月 29 日 (金) 16 : 00～17 : 00
開催場所	岩谷学園アーティスティック B 横浜美容専門学校 202 教室
参加者	【学校関係者評価委員】 松野功明 有限会社 サロン・ド・ポーテ・グレース 森本チツ子 株式会社ラ・ポーテ・アクアボン 斉藤愛美 <卒業生> 我妻紗彩香 <卒業生> 大西由美子 <保護者> 濱崎友紀 <保護者> 鈴木弘文 <地域住民> 松本康二 <地域住民> 【教職員】 鈴木政信 校長 宮田具 教務主任 石崎淳子 教務MG 古谷聖子 教育MG 杉本美季子 教育MG 石井紀代子 統合事務局副部長 手塚朋子 統合事務局 (議事録)
評価対象	ビューティースタylist科、トータルビューティー科
配布資料	・学校関係者評価委員会実施要項 ・学校自己点検・自己評価表 ・授業アンケート報告 ・令和元年度事業概要

■ 校長挨拶

開催に向けて、校長の鈴木より当校の「新型コロナウイルス」完成対策についての説明があった。

- ①現在のところ感染者なし
- ②感染防止対策として、次のことを実施
 - アルコールによる手指の消毒
 - マスクの着用

- フェイスシールドの着用
- 教室の換気
- 授業教室の移動による密の回避（大教室の使用）
- Google Classroom の導入

■ 委員会成立の確認

校長より委員会メンバーについての紹介を行い、令和元年度の委員及び事務局メンバーについての確認がなされた。委員全員の出席が確認され、委員会の成立となる。

2 令和元（2019）年度の学校事業概要報告

学校行事について	
	<p>入学前の4月3日、4日：HR ガイダンス実施</p> <p>4月19日：新入生オリエンテーションでは、バーベキューを実施 2年生も参加したことで学年の交流が図れた</p>
教育交流事業について	
	<p>仕事の学び場：7月に実施した高校生対象の職業体験学習講座 本校学生もサポートとして講座に参加 目指す職業に就いて再認識を得る良い機会となった</p> <p>教育交流：県下4校の連携事業で、高校の単位認定授業として実施されている 連携高校3校より高校生10名が参加</p> <p>企業連携：トータルビューティー科1年生対象に「Beauty Therapy Ai YOKOHAMA」にて実際のサロンの現場で学ぶことを実施</p> <p>インターンシップ：ビューティースタylist1年生→県内の20サロンで5日間体験 トータルビューティー科1年生→県内のネイルサロンやエステティックサロンなどで2日間体験</p>

3 基準項目ごとの学校関係者評価・意見等

平成31（令和元）年度の自己点検評価報告をもとに、各基準項目ごとに学校から説明がなされ、評価を行った。

評価項目		評価
1	教育理念・目的・育成 人材等	<p>学校の教育理念、目的、育成する人材像は明確で、全教員に周知・理解されている印象である。</p> <p>今後は産学連携をより強化し、業界の動向をカリキュラムに反映できる体制を作してほしい。</p> <p>また、インターンシップにおける教育内容の充実を図ることに注力していく必要があると思われる。</p>

2	学校運営	<p>全般的に順調であり、学園や学校内の各種規則・規程、マニュアル等の改訂について継続的に実施されている。</p> <p>PC等IT機器の取り扱いについて、個々の職員の活用レベルを高める必要があるということが課題として挙がっており、コロナ禍における「新しい教育」ーICTの活用（リテラシ教育も含む）ーとともに早急に対応していくことが検討されている。</p>
3	教育活動	<p>教育理念に沿った教育課程の編成や「教育ストーリー」の設定など、全般的に見て順調に推移していると判断できる。</p> <p>授業アンケートおよび結果のフィードバックの継続的な実施により、PDCAサイクルが機能していることも、教育の質を高めている一因と評価できる。</p> <p>産学連携授業（高度美容技術）については、技術の向上および就業後に有益な実践的な内容をカリキュラムに積極的に反映・実施されており、学生が多方面から美容に関する興味・関心を持てるように工夫している点は大きいと評価に値する。学生同士が切磋琢磨して技術の向上に励む雰囲気醸成されているのは、先生方が学生とのコミュニケーションをしっかりと、目標を明確に定めて指導しているからだと思われる。これらが相乗効果となり美容師国家試験の合格率を高水準で保っているのではないかと（2年連続県内1位）。</p> <p>2019年度は国家試験の科目数変更に伴い、今後見直しが必要となる教科もあると思うので、十分に検討して対策を講じてほしい。</p> <p>教職員の能力開発のための研修への参画についてはバックアップの環境をより充実させていくことが必要と思う。教員が習得した技術を学生に還元するサイクルを作り、より魅力のある学校作りを目指してほしい。</p>
4	学修成果	<p>各種資格取得状況については、上位資格や新しい資格にも積極的に挑む学生が増えているので、今後も継続していくことを期待している。</p> <p>就職率も高い数値で推移しており、担任、キャリアセンター、企業との連携による手厚いサポートがなされていることがうかがえる。</p> <p>就職後の離職率を限りなく低くするための種まきが教育においてできるように、卒業生の状況・情報把握ができる環境を構築し、活用していくことを期待する。</p>
5	学生支援	<p>学生や保護者に対しては、常に丁寧に対応しているという印象が強い。保護者会等でも問題の共有を図り、「ともに学生を成長させていく」姿勢に心強さを感じる。卒業生についても個々の担任がコミュニケーションをとる工夫をしており、以前よりも学校を訪れる機会が多くなったように感じる。</p> <p>先生方は退学者対応に苦慮されていると思うが、退学の理由が様々に変化してきていると感じる今、退学率の低減を図ることは難しいかもしれない。ただ、どんな時でも頼れる学校、親身になって考えてくれる教員がいるこ</p>

		とは、学生にとってとても心強いのではないか。カウンセリング有資格者が複数いることで、指導にも厚みが出てきていると思う。
6	教育環境	大規模災害対策として、マニュアルの整備・備蓄品の確保はできているが、訓練等の実施も含め一層の充実に努めてほしい。 海外研修については、治安等不安面があり現在は実施を見送っているが、ヘアショーへの参加やセッション、観劇などを通じて、技術だけではなく様々な「美」を意識する・追及する機会を設けている。 設備については教育上の必要性に十分対応できるように整備されているが、経年劣化は避けられないので、計画的に改善を進めていきたい。
7	学生の受け入れ募集	学生募集活動は、協定等を遵守し、公正に行われていると判断する。昨年より受入を開始した職業訓練生において、全員が国家試験に合格し全員が美容室勤務を果たしたことが学生の大きな刺激となり、励みになっていると感じる。入学希望者の目指す職業も多様化しており、美容師以外の進路を考えて入学してくる学生も増えているとのこと。将来像の見せ方や「岩谷らしさ」をいかに表現していくかにより、多くの学生の確保につながるのではないか。
8	財務	現段階では財務基盤は安定していると判断するが、今後も定員充足に努め中长期的に安定できるよう努力してほしい。
9	法令等の遵守	法令、規則、規程等を遵守し、適正な運営を行っていると評価できる。個人情報保護や肖像権、著作権の取り扱いについても適切に情報を収集し対応していることがうかがえる。学生や教員に対する啓蒙活動も定期的に行っており、引き続きお願いしたい。
10	社会貢献・地域貢献	学校は地域に根差したものでなければならず、地域貢献・社会貢献は学校が担う社会的な使命とも言える。これは岩谷学園の建学の精神に相通ずるものである。ヘッドネーションや介護老人保健施設訪問などボランティア活動を行っているが、さらに学校、職員、学生それぞれの立場でできることを模索し、形にしていければ良いのではないか。
11	国際交流	留学生の受け入れを拡大していくにあたり、美容業界での就労のむつかしさをいかに打破していくかが大きな課題である。美容業界においても人材不足が深刻であることは否めず、業界全体で取り組むべき課題とも考える。

総評

学校関係者評価委員会として、岩谷学園アーティスティック B 横浜美容専門学校の学校評価は概ね「合格」と判断・評価する。

少子高齢化に加え、今年のコロナ禍など問題が山積ではあるが、新しい教育の模索や教育ストーリーの見直しと更新を常に実施し、学校の目指すところが明確に示されているところが高く評価できる。連携企業など外部からの情報を積極的に取り入れ、カリキュラムへいかに反映させるか…といった取り組みも学校全体で取り組んでいることで、教育目標や理念の個々人への定着が実現していると思われる。

学生へのサポートもしっかりと行われているので、学生へ「安心」を提供できている。今後も学生一人一人が

明確な目標をもって学生生活を送れるよう、また、就労後も継続して社会に貢献していけるよう、支援を継続して行ってほしい。

教育信条である「職業人教育」を進めるにあたり、ボランティア等地域貢献・社会貢献体験も重要と考える。どのような形で実現できるか、更に研究を重ねて形にしてほしい。そして、社会のニーズを的確にとらえ、社会が求める人材を育成する専門学校としての使命を果たしていかれることを期待する。